

日本産婦人科医会 記者懇談会

平成30年3月14日
がん部会 幹事
戸澤 晃子

「HPVワクチン接種後に生じた症状に対する当面の対応(5本柱)」の進捗状況について 平成29年11月29日

- (1) 救済に係る速やかな審査 健康局/医薬・生活衛生局
- 平成27年9月18日～ 予防接種法に基づく定期接種に係る審査 : 審査した計 36人中、21人を認定
 - これまでの予防接種法に基づかない任意接種(基金事業等)に係る審査 : 審査した計436人中、274人を認定
- (2) 救済制度間の整合性の確保
- 基金事業において接種した方で、生じた症状とワクチンとの因果関係が否定できないと認定されたが「入院相当でない通院」の場合においても、予防接種法に基づく接種と同等の医療費・医療手当の範囲となるよう国庫予算で補填。(平成27年12月1日事務連絡発出) 申請された186人中、131人に支払い済
- (3) 医療的な支援の充実
- 身近な地域で適切な診療を提供するため協力医療機関を(47都道府県、85医療機関)を整備。
(実績)平成27年11月22日～平成29年3月の間に、協力医療機関を受診した患者:715人※
※ホームページ上に公表している窓口を経由して受診した者を計上。複数施設受診者は重複して報告している可能性がある。
 - 平成28年3月16日、7月22日、平成29年7月19日 協力医療機関の医師向けの研修会開催。
 - 診療情報を収集するための受診者フォローアップ研究を実施中。
- (4) 生活面での支援の強化
- 平成27年11月16日各都道府県等の衛生部門及び教育部門に相談窓口を設置・公表
 - ・ 衛生部門81自治体(都道府県47、政令指定都市14、中核市19、保健所設置市1)
 - ・ 教育部門69自治体(都道府県47、政令指定都市 10、中核市12、保健所設置市0)
 - ※ 平成27年11月2日、窓口担当者向けの説明会を実施。
 - (実績)平成27年11月～平成29年7月の相談件数:衛生部門923件、教育部門160件
 - 窓口において、相談者の個別の状況を聴取し、関係機関と連絡をとり支援につなげる。
 - (衛生部門の例) ・ 個々の症状や居住地等に応じた受診医療機関(協力医療機関等)を紹介。
・ 救済の申請について、必要書類や相談先を紹介。
 - (教育部門の例) ・ 出席日数が不足している場合に、レポート提出や補習受講により単位取得できるような配慮。
・ 校内で車椅子を利用する場合に、教室移動が少なくて済むような時間割の調整
- (5) 調査研究の推進
- 平成27年11月27日の審議会において、疫学調査の実施方法について議論。
 - 平成28年12月26日の審議会において、研究班から、疫学調査の結果(HPVワクチン接種歴のない者においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を呈する者が、一定数存在したことなど)が報告された。また、審議会委員から、疫学調査の追加分析に関する要望が出された。
- 平成29年4月10日の審議会において、研究班から、疫学調査の追加分析の結果が報告され、平成28年12月26日と結論は変わらなかった。
- 3

予防接種情報 HPV感染症 厚生労働省HPより

リーフレット「HPV ワクチンの接種に当たって医療従事者の方へ」 参 考 資 料

- 我が国におけるHPVワクチン接種後に生じた症状頻度報告
- 諸外国におけるHPVワクチンの安全性に関する文献
 - ・米国 4価HPVワクチン 2006～2008年の安全性に関する報告
 - ・米国 4価HPVワクチン 2012～2013年の接種率と安全性に関する報告
 - ・スウェーデン、デンマーク 4価HPVワクチン 2006～2010年の安全性に関する報告
 - ・英国 2価HPVワクチンと慢性疲労症候群の検討（2008～2011年）
- 諸外国の公的機関および国際機関が公表しているHPVワクチンに関する報告書
- HPVワクチンポジションペーパー
- HPVワクチンの有効性について

HPVワクチン 厚生労働省HPより 平成30年1月 「積極的な接種勧奨の一時的差し控え」から・・・

HPVワクチンの接種を検討している（お子様と保護者の方へ）

ワクチンの「意義・効果」と「接種後に起こりえる症状」について確認し、検討してください。

【ワクチン接種の「意義・効果」】
子受けいがんの主な原因ウイルスの感染を防ぎます

● 子受けいがんの原因は、性感染症によって感染するヒトパピローウイルス(HPV)です。そのため、ワクチンを接種してウイルスの感染を防ぐことで、子受けいがんを予防できると考えられています。

● HPVワクチン接種は、子受けいがんそのものを予防する効果は、接種でまだ確認できていません。しかし、HPV感染予防（感染防止）効果により、感染防止により、その一部ががんの原因になり、さらにその一部ががんになります。また、HPVの感染は、一部のウイルス感染防止は、予防効果も期待されます。HPVワクチン接種により、感染防止で、HPVの感染や子受けいがんの感染、がんの原因の減少したとの報告があります。

● HPVワクチン接種は、子受けいがんの予防効果は、約90%（※）とされています。また、HPVワクチン接種は、子受けいがんの予防効果は、約90%（※）とされています。

● HPVワクチン接種は、子受けいがんの予防効果は、約90%（※）とされています。また、HPVワクチン接種は、子受けいがんの予防効果は、約90%（※）とされています。

● HPVワクチン接種は、子受けいがんの予防効果は、約90%（※）とされています。また、HPVワクチン接種は、子受けいがんの予防効果は、約90%（※）とされています。

HPVワクチンは、積極的におすすめることを一時的にやめています

厚生労働省

HPVワクチンを受ける（お子様と保護者の方へ）

ワクチンを受けた後は、体調に変化がないか充分に注意してください。

もしも、気になる体調変化があった場合は、このリーフレットを参考に、医師等に相談してください。

【ワクチンを受けた後30分ほど座って様子みてください。】
● 接種の副作用や、痛み・腫れをきっかけに、重症アレルギーとして、顔がゆっくらになり、息が苦しくなったり、喉に痺れを失うことがあつす（この反応も、自覚症状が現れると「アレルギー反応」と見なされます。）、意識喪失などで命を落とす危険があります。この他に、アレルギーが起ることもあります。

【ワクチンを受けた日は、はげしい運動はやめてください。】

【気になる症状が出たときは、すぐにお医者さんや周りの大人に相談してください。】
ワクチン接種後に、もしも気になる症状が出た場合は、必ず、すぐで医師等に相談しましょう。必要とされる検査や治療に同意していただきますので、参考にしてください。

HPVワクチンは、積極的におすすめることを一時的にやめています

厚生労働省

子宮頸がんを撲滅するためには・・・



HPVワクチン接種

子宮頸がん検診

- HPVワクチンによる子宮頸がん予防（一次予防）
- 子宮頸がん検診受診率を向上し、死亡率を減少（二次予防）

HPVワクチン接種をするかどうかの判断に必要な情報を提供する必要性